

西都原考古博物館 第2期中期運営ビジョン評価表【令和4年度評価表】

※評価欄の数値は4段階評価

内部評価	個別評価	4・・・目標を大きく上回った	3・・・目標を達成できた	2・・・目標をやや下回った
		1・・・目標を大きく下回った		
	総合評価	個別評価の平均値（小数点第2位以下四捨五入）		
外部評価		4・・・期待以上でできた	3・・・ほぼ期待どおり	2・・・やや期待を下回る
		1・・・改善が必要	※各委員評価の平均値（小数点第2位以下四捨五入）	

(1) 調査研究

項目	内部評価					外部評価		
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見	評価	
調査研究	論文等の執筆・研究発表等	一人年1回以上 (*学芸普及担当職員1人あたり)	*各職員が1本以上、論文等の執筆を行った。	3	2.8	①多忙な業務のなかで、調査研究を全職員がしっかりと進められていることに敬意を表します。課題として上げられている質と量の向上について評価4がつけられるように努力いただく事を期待します。 ②多忙な業務の中で、学芸員諸氏の個別研究には敬意を表すが、今少しレベルアップを期待したい。 ③調査研究の成果は、職員間及び館外の関係者等へ広く周知を図ることで、当館の取組のPRや職員の資質向上等にも繋がると考えられるので、現在の刊行物による公表に加えて、報告会の開催やインターネットを通じた情報提供等の取組なども検討して頂くと良い。 ④概ね期待どおり達成されている。古代歴史文化協議会合同調査研究事業の「古墳時代の刀剣類」で貴館学芸員は蛇行剣を取り上げられていたので、ぜひ研究成果を次の展示に活かしてほしいと希望している。 ⑤論文執筆等着実に実行されている。公表の仕方について今後も検討していただきたい。 ⑥調査研究の成果公開の項目で、内部評価が2になった理由と具体的な対策について記述していただきたい。なお、酒元ノ上遺構保存覆屋の工事については、(2)で評価した方がいいのではないか。 ⑦多面的な研究がよくなされている。その年の調査研究には次年度の展示に即反映できないものがある。令和5年度の特別展において、この数十年の研究成果を踏まえた見応えのある内容が紹介されていた。これも4年度における展示を見据えた調査研究の成果として見せていただいた。 ⑧事業報告書によると、今後の調査へ期待するものが多い。調査途中と考えて益々の発展を期待します。 ⑨子ども達が史跡や県内の歴史に興味を持てるよう、今後も調査研究に取り組んでいただきたい。	3.1	
	事業実績及び課題							
	*目標は達成しているが、より一層、調査・研究成果のアウトプットの質と量を高める必要がある。							
	評価指標		事業実績及び課題					個別評価
	・特別史跡西都原古墳群の全容を理解するための調査と研究を行ったか。		第3支群内の滅失古墳と想定される2カ所について周溝や墳丘の確認を目的とする調査を実施した。 調査の結果、2基の滅失円墳を確認し、墳丘規模や築造時期が推定できる資料を検出した。	3				
	・地中レーダー探査によって、西都原古墳群をはじめとする県内の古墳群・遺跡の究明を行ったか。		西都原古墳群鷺田支群内にある198・199・306号墳を対象に探査を行った。(面積2,087㎡) ※探査結果については、現在解析中である。	3				
	・調査研究の成果を展示等に反映させ、史跡の保存整備に活かすなど、あらゆる機会をとらえて公開したか。 また、研究紀要、図録や報告書等で調査研究の成果を公開したか。		酒元ノ上横穴墓群遺構保存覆屋施設は、令和2年度に策定した整備計画に沿って屋根の工事を行い終了した。今後は、新たに確認された他の老朽箇所を含めた屋根の全面的な改修に向けて必要な条件整備や検討を行う。 研究紀要1冊、図録2冊、発掘調査概要報告書1冊を刊行し、調査研究成果の公開に努めた。	2				
・国内外の研究者と交流し、最新の研究動向の把握に努めたか。		韓国関連では、協定を締結している国立羅州博物館との人的交流を2年ぶりに再開し、相互の職員5名が交流を行った。 台湾関連では、人的交流は再開できなかったが、協定を結んでいる新北市立十三行博物館が開催したシンポジウムにオンラインで参加し、発表を行った。 国内では古代歴史文化協議会の共同調査研究に参加し、展示会、図書の刊行に携わった。また、水田稲作比較技術研究プロジェクトや文部科学省の科学研究費の研究分担などの研究協力を行った。	3					

(2) 資料収集と保存活用

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見	
資料収集と保存活用	鉄製品保存処理件数	年50件以上 (外部委託を含める)	95点の保存処理を行った。 (館内94点、外部委託1点)	4	3.3	<p>①館内での業務に加え、市町村からの応急処置の要望にも応じて目標値以上の保存処理を実施できている点は評価に値すると思います。日頃からの貴博物館への業務に関する信頼の表れだと思います。鉄器の応急処置は、貴博物館としての重要な仕事だと思うので、その成果をしっかりとアピールするような方法も考えられるとなお良いと思う。</p> <p>②高度な専門性の必要な収集と保存を順調に行われていると推察します。</p> <p>③昨年度は鉄製品の保存処理が進んだようである。今後も資料の確かな保存活用を進めてほしい。</p> <p>④評価指標の「収集、分類・登録件数」については、目標値「年1000件以上」と設定されているが、その内訳が明確でない。例えば目標値「収集〇〇件、分類・登録件数〇〇件」のように、具体的な目標を設定することで、評価も明確になると思う。</p> <p>⑤図書室の資料はデータベース化されているのか。論文や書籍など、おもしろそうだなと思って拝見している。図書館検索連動などは、貸出できない関係上、難しいのか。</p>	
	事業実績及び課題 小林市九塚地下式横穴墓群出土鉄製品の応急処理や都城市鶴喰遺跡出土馬鐸等の応急処理を行うなど市町村等からの要望に応じて県内出土の金属製品等の保存処理を行った。今後も適切な保存環境のもと、万全の状態 で資料が保管できるように努める。						
	(図書・写真等)収集、分類・登録件数	年1,000件以上	1,188件(図書701冊、写真のデジタルデータ化487件)	3			
	事業実績及び課題 目標値以上の実績をあげることができた。今後は、図書の配架スペースの確保や画像デジタルデータの恒久的なバックアップなどの保存方法の検討を行う必要がある。						
	評価指標		事業実績及び課題				個別評価
	・古人骨を適切に収蔵管理し、データの追加や更新を行ったか。		収蔵人骨の点検や補修、クリーニング作業やデータベース登録を継続的に実施した。また、資料調査への効率的な対応を実現するため、活用しやすい環境の実現に向けて、データベースの整備を重点的に進めた。				3
	・土器や石器について、適切に保管し、活用の幅を広げるために分類と修復を行ったか。		115号墳、291号墳、第1支群横穴墓群、第3支群滅失古墳の報告書作成に向けた遺物の整理作業を行った。また、過去に調査を行った丸山遺跡A区の再整理作業を行った。さらに個人の方が収集していた遺物コレクションを引き取り、整理を行った。				3

(3) 展 示

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
入館者数	入館者数	年12万人 (*本館及び古代生活体験館入館者)	63,395人(本館55,743人+ 古代生活体験館7,652人)	1	2.9	<p>①特別展、国際交流展、企画展Ⅰ・Ⅱの期間中の入館者数が前年度比で110%だったことは、大変評価できる。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響で目標値を大きく下回っているが、3年以上同じ状況であり、何らかの方策が早急に取りられるべきではないか。</p> <p>※昨年度も同様のコメントをしている。西都原は春夏秋冬の花が有名で多くの観光客が訪れるので、その流れで博物館に足を運んでほしいが、奥まった立地で、樹木との関係で分かりづらいようにも思う。環境整備も含め、情報発信とも関連するが、魅力の発信を期待したい。</p> <p>③コロナ禍にあって非常事態宣言も出された中で、入館者が6万人を超えていることは素晴らしい成果である。魅力的な展示を工夫されていることが来場につながっているものと考え。</p> <p>④入館者数がコロナ要因を除いても減少傾向にあり、目標値と実績値の乖離が大きい。</p> <p>特別展や企画展、コレクションギャラリー展など、素晴らしい内容も多く様々な取組を工夫して実施していることは、大変評価できるが、入館者の増加につながっていないのが残念である。今後とも様々な手法を活用してのPRの強化や県民ニーズを捉えた展示内容の検討、さらには入館者へのアンケート結果を踏まえた改善策を推進するなど、入館者増加に向けての一層の取組強化が望まれる。</p> <p>⑤当館は、南九州の考古学を牽引する展示を継続していると評価する。周囲の古墳も含め更なる興味深い展示を継続するものを楽しみにしている。</p> <p>⑥入館者数が伸び悩んだ点は、コロナの影響が大きいことは自明であると思われるが、もう一つ大きな要素と考えられるバスの運行停止の影響は実際にどれくらいあったのかが気になる。</p> <p>⑦入館者増への具体的な取組についての記述がないのが残念である。目標値に届くには今の倍の人数を集める必要があるため、しっかりと戦略を考える必要があるのではないかと感じる。協議会に限らずもっと専門的な外部の意見も取り入れるなど根本的な改善が必要と感じる。</p> <p>⑧特別展等の実施回数は、目標値に対して+1ではあるが、入館者数が前年度と比較すると+10%ということで、入館者をもう少し増やす取組が鍵になるのではないかと感じる。</p> <p>⑨入館者の伸び悩みに関して、『年報』38頁にアンケートに回答した来館者の交通手段が掲載されているが、その中に徒歩やタクシーが見られる。公共交通機関での便の悪さが気軽に行けない要因の一つになっているのではないかと感じる。</p> <p>⑩国際交流展「古墳時代の台所革命と東アジア」は大変面白かった。これまでにない着眼点でレベルの高い展覧会であった。今後も、このような展覧会を期待している。</p> <p>⑪「かまど展」の開会日に参加した。妻高校の生徒が来賓として参加し、テープカットも行ったことに、まずは感動した。もちろん、展示とその説明も分かりやすく、多くの方に見ていただきたいと思わせる内容だった。</p> <p>⑫展示内容は、アジアとのつながりを捉えた国際的な視点や考古学者の日常を捉えた視点など多彩で興味深い。</p> <p>⑬国際交流展は、身近な話題で興味深く、とても気になるテーマでした。</p> <p>⑭令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がまだあり、入館者の減少はやむを得ないことであるが、令和5年度以降に回復を図るために具体的に減少の実態(団体、個人、県外者など)を分析され、対策を立てていただきたい。また、アフターコロナに、向けて感染対策等をお願いしたい。</p> <p>⑮入館者が目標値を大きく下回り、コロナ禍の中とはいえ、極めて危機的である。来館者数を増やす工夫として、西都原古墳群の内容や発掘調査の実情をメディアに積極的に公開したり、発掘調査現地説明会などもあるのではないかと感じる。</p> <p>⑯入館者の目標値「年12万人」について、目標数値が高いと感じた。10年間で宮崎県民全員に相当する数値設定である。総合博物館は概ね県庁所在都市周辺に所在するため、通りがかりの集客数を見込むことが可能であるが、西都市は地理上、集客を大量に確保可能な立地ではないため、実績値である63,395人でも立派な実績だと感じる。しかも昨年は新型コロナウイルスの影響がある中での数値であるため評価を4とした。同種の考古博物館について、他県の入館者数もいくつか確認してみたが、かなり低い入場者数のところもあった。</p> <p>⑰隣接する区域に来る来客者(桜、菜の花、ひまわりの観覧者)をうまく博物館に誘導する一体的な流れを構築してほしい。</p> <p>⑱土器などに触れられるのがいいと思う。でもいまだに知らない見学者もいるようだ。</p>
	事業実績及び課題	*昨年度より増加したが、新型コロナの影響がなかった平成30年度との比較で約55%にとどまっており、アフターコロナの時代に多くの方に訪れていただけるような取組を続けていく。				
展 示	特別展・国際交流展等 実施回数	年3回以上	4回実施	4	3.1	
	事業実績及び課題	特別展、国際交流展、企画展Ⅰ・Ⅱの期間中の入館者数は43,303名で、前年度と比較すると110%であった。				
	評価指標	事業実績及び課題		個別評価		
	・特別展においては、県外資料を含めて構成し、日本列島における南九州の地域性を明らかにする展示を行ったか。	「飛び道具」の製作、利用をテーマとして、旧石器時代から近代に至るまでの技術変遷を描く展示内容とした。 なかでも長崎県の鷹島海底遺跡から出土した元寇時に使用された「てつほう」を展示した。		3		
	・国際交流展においては、韓国や台湾からの国外資料を含めて構成し、東アジアにおける南九州の位置づけを考える内容の展示を行ったか。	コメの調理法と調理施設の歴史的進化の過程を、朝鮮半島や南九州をはじめとする日本各地の遺跡を紹介しながら、東アジアの視点で読み解く展示を行った。		3		
	・企画展においては、主に県内資料で構成し、古代日向の特徴について様々な視点で展示を行ったか。	企画展Ⅰでは、特別史跡指定を受けてから70年が経過する西都原古墳群の保護と活用の歴史を当時の文献や記録類、発掘調査出土品などで振り返る展示を行った。 企画展Ⅱでは、石庖丁や石鏃、土器を中心に、県内の弥生時代の文化の特色を紹介する展示を行った。		3		
	・コレクションギャラリー展においては、主に館蔵資料で構成し、日々の博物館業務の中から設定されるテーマに沿って情報発信を行ったか。	「考古学者のモノの見方」をテーマとして、須恵器の型式変化、遺物の記録方法や最新の測量技術、赤外線カメラや顕微鏡などによる観察方法の紹介を行った。		3		
	・多角的な視点で南九州を見つめるため、考古学に限らず、関連する諸学問や諸分野に関する展示等を行ったか。	京都国立博物館との「相互交換展示」を通年展示として行った。 また、県内山間地における昭和中期頃の狩猟文化に係る写真展示を行った。		3		

(4) 教育普及

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見	
① 生涯学習の一環としての教育普及活動	講演会・講座の実施回数	年15回以上	19回実施	4	3	①生涯学習の一環としての教育普及活動に関して、講演会、講座の実施回数が目標値を大きく上回り、高く評価できる。 ②講演会や講座を目標値より多く実施している。※コロナ禍にあって、職員の努力・工夫が伺える。 ③生涯学習としての教育普及活動及び学校教育との連携活動に、積極的に取り組んでおり評価できる。今後とも、魅力ある講座・講演会の開催や体験型メニューの充実等に取り組んでいただきたい。 ④講演会及び講座の実施回数が目標値を大きく上回って実施できている事が素晴らしい。令和4年度は夏過ぎまで、まだコロナの感染者数が宮崎は多く、講座等を実施するには苦労があったと思われる。 ⑤コロナ禍の中での講演会・講座を着実に実施されたことは評価に値すると思う。企画・準備が大変と思うが今後も継続していただきたい。 ⑥講演会や各種の講座は目標値を上回るが、参加者が極めて少ないのは危機的である。 ⑦台風で中止になった活動は、自然災害によるものなので仕方ないし、年間スケジュールの関係もあるので難しいとは思いますが振替実施はできないか。 ⑧考古学の講演会や講座は一般的に地味で、参加者数を確保するのは困難かもしれないが、小さな講座でも地道に実施していく事で、理解者が増えて行くと思う。 ⑨体験的な内容も積極的に取り入れ、充実した活動が計画されている。地理的な条件の厳しさがある場合は、オンラインでの学習利用ができるとうい。 ⑩考古博講座をアーカイブで受講できると良い。 ⑪古代食の体験に一度参加したことがあるが、石器や土器を使って古代の生活に思いをはせ、大変興味深いものであった。多くの子どもたちに参加してほしい。	
	事業実績及び課題						個別評価
	講演会2回、考古博講座5回、体験・実験講座6回(中止1回)、考古博少年団6回(年間9回活動中3回中止)を実施した。 中止となった講座・少年団活動はすべて台風の影響によるものである。			2			
	評価指標		事業実績及び課題				個別評価
	・古代生活体験のメニューの充実を図り、実践的に学べる機会を提供したか。		体験活動のメニューについては10月より土器・埴輪づくり、石器づくり、火起こし体験を再開した。				3
・見学会や現地説明会など関連活動を実施したか。		特別展・国際交流展開会式後の内覧会、3月の発掘調査の一般向け現地説明会、ボランティアスタッフ向け研修会を実施した。		3			
② 学校教育との連携	評価指標		事業実績及び課題		個別評価		
	・学校教育の中で博物館を活用するための支援を行ったか。		学校団体の利用時に、見学前のポイントなど展示に関する概要説明や校区内の文化財の説明を行った。 当館を利用して、児湯るびなす支援学校が生徒の作品を発表する「アートフェス」を開催した。		3		
	・教育研究会等の各種事業を支援したか。		県内中学生の英語弁論大会や教育研究会等が当館のホールを使用して研究集会を行った。		3		
・職場体験、インターンシップ、博物館実習等を積極的に受け入れたか。		妻高校や佐土原高校が当館を利用して「職場実習」を行った。 インターンシップについては県内外の大学生や国立都城工専の学生の受け入れを行った。また、博物館学芸員課程の実習は県内出身者の大学生3名を受け入れた。		3			
⑫中学校のイベント、高校の職場実習、大学生や高専対象のインターンシップ等、色々な側面から学校教育との連携を図られている事が素晴らしい。 ⑬小学生以下については、博物館までの距離の問題等があり、来館そのものが困難である。(特に西都市地域以外から)また、展示物も総合博物館と比べると特殊であるため、馴染みがないかもしれない。今後の課題だと言える。 ⑭職場体験やインターンシップ、学芸員実習と生徒や学生のための積極的な取組に好感を抱く。まずは、児童生徒や学生らに考古に対しての関心を今以上に持ってほしいと思っている。西都原考古博物館のこのような取組は、それらの土台になるのではないかと。 ⑮本校も1学期に高学年が見学したが、館内見学では学芸員の方が児童に付き添って説明してもらい、子どもたちも積極的に質問ができていた。「勾玉作り」にも楽しく取り組んでいた。 ⑯学校の遠足で活用できる行ってみたくなるイベントの開催、博物館まつりなど入館者が増える取組をお願いしたい。							
3.2							

(5) 情報発信

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
① 広報活動の充実	報道機関への情報提供回数	年20回以上	19回実施	2	3	<p>①HPを活用した広報活動は、地道な作業と思っている。それを丁寧に取り組んでいることを評価する。</p> <p>②HPやFacebook、TV、チラシなど様々な工夫を凝らして発信しているが、入館者数が伸びていないのは残念。「(6)経営」の中の「①県民からの意見の反映」によると、来館者の満足度は目標値に達しているため、来館していない人に興味・関心を持ってもらえるような情報発信の工夫が必要ではないか。</p> <p>③宮崎の歴史を辿る旅など引き続き情報発信をして、県内のみならず観光地として選ばれる場所になってほしい。</p> <p>④HPの更新回数が目標値を大きく上回っている。担当者が常に意識していないと更新を怠りそのままになって、閲覧者がいなくなり、忘れられてしまうので今後も頻繁な更新を期待したい。</p> <p>⑤HP更新が積極的になされ、わかりやすく魅力的な内容となっていて評価できる。来館し展示を見ていただくためには、HPを見ない方々への情報発信がさらに必要であるとする。テレビやYouTubeなどのメディア利用もさらに進めてほしい。</p> <p>⑥HPの更新に積極的に取り組み、リアルタイムでの情報発信に努めたこともあり、総訪問数の増加という成果に繋がったことは大いに評価できる。また、観光事業団体等との誘客に関する連携にも力を入れるなど、館外の関係者との協力体制づくりに取り組んでいることも評価できる。今後は、報道機関への情報提供をさらに強化するとともに、団体等との連携は、観光部門に留まらず、様々な団体等の連携づくりに務めるなど、情報発信の一層の取組強化が望まれる。</p> <p>⑦HPの総訪問者数は過去8年で最多とのことで、コロナが少し落ち着いたことも要因としては考えられるものの、更新をまめに行うなどの努力の表れと思う。</p> <p>HP訪問から現地訪問にどのように結びつけるかが今後の課題だと思うので、具体的にどこからやってきたのかログを分析するのも必要かと思う（google等の検索からなのか、観光協会等のサイトからなのか、SNSからなのかといった細かい分析はあっても良いかもしれない）。</p> <p>⑧比較的ベテランの社会人はフェイスブック、若い年代はX（旧Twitter）を情報入手のツールとして活用しているとの情報がある。Twitterの情報は検索しやすく誰でも早く情報入手ができる一方、フェイスブックは比較的閉塞的で友達にならないと情報が入手しにくいと感じるので、西都原考古博物館も単独でTwitterでの情報発信をしてほしい。</p> <p>⑨SNSは行事だけでなく、季節の花々などがアップされていると、目にとまる。3階からの展望が特徴的と思うので、時々、定点観測でこちらからの写真を入れると、興味を引くような気がする。</p> <p>以前、取材したガイドボランティアの方が、全古墳を数年かけて回られた方であった。人にフォーカスした発信も見てみたい。</p>
	事業実績及び課題		目標値よりは下回ったが、前年度に比べて提供回数は増えており、さらなる情報提供を心がけていきたい。			
	評価指標		事業実績及び課題			
	・博物館の利用者を増やすために、様々な広報媒体を使って館の情報発信を行ったか。		当館のホームページやFacebookページを利用して当館の活用内容を発信した。また、雑誌やテレビ取材への協力を行った。			
	・各市町村教育委員会や各社会教育施設等へ博物館の利用を働きかけたか。		県内各市町村教育委員会へのチラシやポスターなどの配布を行った。さらに、児湯郡内の社会教育関連施設を訪れて利用の働きかけと、チラシの配布を依頼した。			
	・観光事業団体等との連携による誘客に取り組んだか。		県や西都市観光協会へのチラシやポスターなどの配布を行ったり、このはな館での遺物の展示を行った。 また、大型商業施設イオン宮崎内で、特別展と国際交流展への来館を呼びかけるポスター掲示を行った。			
② 博物館ホームページ等の充実	評価指標	目標値	実績値	個別評価	4	
	ホームページ更新回数	年48回以上	70回更新			
事業実績及び課題		当館HPの「総訪問者数」は過去8年間で最高となった。また、当館のFacebookを87回更新した。				

(6) 経営

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
① 県民等からの意見の反映	アンケート収集件数	年1,200件以上	619件回収	1	2.8	<p>①アンケートの収集の件数が619件ということで、前年度より倍増していることは評価できる。ただ、満足度の実績値が83.8%と総合博物館の90%超えに対して低いようである。入館者の「満足ではない」という声をしっかり受け止め、展示や情報発信の工夫・改善に生かしてほしい。</p> <p>②県民のからの意見にも見られたが、開館当時は新しい手法の展示や館内と感心したのだが、高齢になると館内の暗さが気になる。年を重ねるとつらいものがある。</p> <p>③アンケートの収集が来館者の1%に満たないのは大きな問題と思う。QRコードの導入など努力されているが、回答してもらえない理由は何なのか。その点の分析と具体的な対策が必要である。</p> <p>④満足度は80%を超えているが、好意的な意見を持っている方々がアンケートに答えていると考え、不満と回答された内容については、しっかりと対応を取っていただきたい。修学旅行で中学校が0となっているが、これについては何か分析されているのか。</p> <p>⑤アンケートにおいて、不評の一つである展示室の暗さについて、足下の暗さへの不安があると推測している。特に高齢者や幼少者にとっては不安であることから、観覧者の安全のためにも何らかの方策をお願いしたい。</p> <p>⑥アンケート回収については、入館者数そのものが減少しているため、収集件数を増加させるのは厳しい状況であると思う。まずは、入館者を増やす取組を進め、その中で併せてアンケート回収件数の増加を図るための工夫をしていく必要がある。</p> <p>⑦アンケート回答での満足度が目標値を上回っているのは、展示内容の充実やボランティア活動との連携強化、さらには職員資質の向上対策等にも積極的に取り組んだ成果であると考えられ、評価できる。引き続き、県民からの意見を十分に反映した展示や教育普及の充実、組織体制の強化に取り組んでいただきたい。</p> <p>⑧アンケート結果は、過去から継続したものと思うので、毎年の経過をグラフにするなど、アンケート結果を見やすくすることで、いろいろヒントが見えてくると思う。「数値の見える化」を検討してほしい。</p> <p>⑨「県民等からの意見の反映」とあるが、具体的な実施内容が見えない。</p>
	事業実績及び課題		アンケート強化月間の取組を行い回収数増加を図ったが、目標の半分までにとどまった。前年度の実績からは倍増しているが、引き続き来館者の意見聴取に努めていきたい。			
	評価指標		事業実績及び課題			
	アンケート回答における満足度		「満足」が80%以上 83.8% （「大いに満足」「概ね満足」の合計）			
	事業実績及び課題		満足と回答した割合が増加したが、不満とする回答も見受けられる。これは展示室の暗さや順路不明瞭、説明情報の少なさなどの意見が多い。改善すべき点、改善できる点については、検討を行っていきたい。			
	評価指標		事業実績及び課題			
・アンケート結果や博物館協議会等の意見を博物館活動や館運営に反映させているか。		照明の設置や出口表示の追加設置などを行った。				

項目		内部評価			外部評価			
		評価指標	事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価・意見		
② 県民等との協働		・地域や県民等との連携強化を図り、新たな利用者の創出につながったか。 また、ボランティアガイドと連携し、活動を支援したか。	館の運営支援を地域のNPO法人に委託することにより、地域との連携を図っている。 また昨年度は、ボランティアスタッフの館外一泊研修（福岡県）を実施し、職員も参加してスタッフとの意見交換を行った。	3	2.8	⑩職員の専門性を伸ばす資質向上のための研修や危機管理研修と計画的に実施されていることを評価する。 ⑪施設・設備の改修は、経費が必要で大変なことと推察するが、博物館活動の維持のためにもぜひ頑張っていたきたい。 ⑫自分が数回来場した際は、館内には説明や解説を行う職員の配置は見受けられなかった。マニア向けの一定配置はしてほしい。		
	③ 職員の資質向上	・外部団体等の主催による研修等に参加したか。	文化庁や日本博物館協会などが主催するオンライン会議等に参加した。	3				
		・館の実情や課題に応じて内部研修等を行ったか。	コンプライアンスや危機管理、人権などの館内研修を実施した。	3				
		・研修の成果を館内の会議等で報告し、情報を共有したか。	参加した会議の内容をまとめ、復命することで館員への情報共有を図った。	3				
④ 危機管理体制の強化	評価指標	目標値	実績値	個別評価				
	防災訓練、研修等の実施	年2回以上	7月と3月の2回実施した。	3				
	事業実績及び課題		7月に危機管理の館内研修を実施し、館内マニュアルの確認や発生する可能性のある危機への心構えと対処について全職員で考える機会を持った。また、同日に救急救命講習を3年ぶりに対面で実施した。					
		評価指標	事業実績及び課題	個別評価				
	・危機管理マニュアルを全職員に周知し、必要に応じて改訂を行ったか。	年度当初に全職員に配付した。 防災訓練の結果を反映させる形で3月に改訂を行った。	3					
⑤ 施設・設備の管理	評価指標	事業実績及び課題	個別評価					
	・施設・設備の維持改善の計画を策定しているか。 また、改善が必要な箇所については、計画的に改修等を行っているか。	県の「営繕工事計画」に準拠して計画的に実施している。 令和4年度は、給水ポンプ、消防設備、空調機器、遺構保存覆屋施設の改修を行った。	3					
その他のご意見	<p>①西都原古墳群に国内外からの観光客や教育旅行等の誘致をさらに進めるため、西都原考古博物館の魅力度アップは欠かせないものとする。博物館は純粋な観光施設ではないので、性格上、様々な制約や限界はあるものと思われるが、なお一層創意工夫をお願いしたい。</p> <p>②小中学生や観光客（県外、国外）が、西都原古墳群の魅力「手軽に」「目に見える形」で、実感、体験できるような仕掛けができると良い。</p> <p>③コロナ禍におけるボランティアの方々の気持ち、苦悩が今回よく理解できた。ボランティアの方々は、考古博物館の運営には欠かせない重要な存在であり、しっかり寄り添いながらともに頑張っていたきたい。</p> <p>④県内の小学校と中学校の各段階で1回ずつ合わせて2回ずつ、この地を訪れて学習することができないか。</p> <p>⑤昨年度までの外部評価を受けて改善した点を一覧にして年報もしくは別資料として提示してもらえないか。</p> <p>⑥年報はPDFで配布してはどうか。HP上で公開されるようになったので、それをダウンロードすれば印刷経費の削減にもなると思う。</p> <p>⑦自治体や県と連携して企画展や特別展の際に、土日だけでも臨時のバスやジャンボタクシーを運行するようなことはできないか。</p> <p>⑧自家用車で来られる方がほぼ8割だが、バスの運行停止以前と比べてどうなのか。宮崎や延岡など人口の多い地域から、いかに人を呼び込むかという点で、交通手段が全くないのは致命的と思う。</p> <p>⑨夏休み等の企画展、特別展の際にツアーを計画するなど広告宣伝をして来館者を待つのではなく、もう一歩踏み込んで人を呼ぶような企画があっても良いのではないと思う。</p> <p>⑩今後の一層の取組として、集客への対応と方法、教育関係、高齢者以外に対する効果的な呼びかけや企画、県内に場を広げての講演・講座などが浮かぶが、具体的提案とはいえない。もっと大きな次元での自由に発想する検討会などできないかと思う。</p> <p>⑪HPに『年報』、『研究紀要』をPDFで公開したことは大いに評価できる。</p>							
						3.0		